

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 14 日現在

機関番号：32404

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25770141

研究課題名(和文) 英語変種の多様性と連続性 アイルランド英語を中心に

研究課題名(英文) Diversity and Continuity of Englishes: Hiberno-English in Focus

研究代表者

嶋田 珠巳 (Shimada, Tamami)

明海大学・外国語学部・准教授

研究者番号：80565383

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：アイルランド英語の性質を世界の英語諸変種の多様性と連続性においてみていくことによって、接触による言語形成と変化、および地域に根づいた英語およびその土地にもともとある民族のことばに対する話者の言語意識について考察した。アイルランド英語文法の動態的観点からの分析を基盤として、とくにカリブ地域のクレオールとの連続性の検討と、話者の言語意識の背景に重点をおいた研究を行った。

研究成果の概要(英文)：This project has examined the dynamism of Hiberno-English, contact-induced language formation and change, and speakers' awareness towards the languages spoken in the community. The examination has been used for an investigation of the continuity in a variety of Englishes; the project has especially focused on the relationship between Hiberno-English and Caribbean Creoles. The background of sociolinguistic awareness has also been examined for its importance in the study of Hiberno-English from a dynamic perspective.

研究分野：接触言語学、社会言語学

キーワード：アイルランド英語 言語接触 世界諸英語 クレオール 言語意識

1. 研究開始当初の背景

アイルランド英語(Hiberno-English)は一般的にイギリス英語の地域方言であると考えられがちであるが、その言語事実は基層のアイルランド語の影響を考えずには説明が難しい。語彙的、音韻的な特徴に HE の固有性がみられるだけでなく、テンス・アスペクトおよび情報構造の表現に関する文法的対立といった文法の根幹といえる部分に、標準英語ないし他の英語変種と区別可能な体系を見出すことができる(拙著 *English in Ireland: Beyond the Similarities* (2010))。

アイルランド英語は、その文法特性から、クレオール研究や接触言語研究においても、たびたび有用な事例として紹介されている背景があり、本研究の前身の報告者の研究課題「世界英語の一つとしてのアイルランド英語の動態的研究」においては、世界の英語諸変種との比較によってその位置づけを検討してきた。社会やコミュニティにおける英語の役割と機能に加え、英語ないし英語系諸変種の定着を導いた植民地支配、奴隷貿易などの社会歴史的背景およびそれらの英語の言語的性質を検討していくなかで、社会言語的類型、言語形成の生態系などの諸理論の参照のもとに、クレオールを含めた他の英語変種との比較、対照によって、社会的環境および言語的条件と実際の言語的性質との関係性を明らかにすることがつぎの課題であるように思われた。

2. 研究の目的

本研究は、アイルランド英語を中心として、世界の多様な英語および接触言語変種との連続性をみる試みである。世界の様々な地域において英語の土着化がみられ、第二言語あるいはリンガフランクカとしての英語の使用が拡大しつつある現在の情勢を踏まえ、アイルランド英語の研究をより広い文脈において展開する。

フィールドにおける言語調査に基づいてアイルランド英語南西部方言(Southwest HE, SwHE)の動態的研究を充実させ、クレオールや植民地英語を含めた他の英語変種との比較と対照においてアイルランド英語の言語的特性を明らかにすることにより、世界諸英語(World Englishes)研究および接触の言語学への事例的および理論的貢献をはかることを目的とした。

3. 研究の方法

アイルランド英語の言語的性質に関しては、現地にて言語話者の協力を得ながら言語調査を行った。言語の実態と話者の言語意識については、参与観察、インテンシヴ・インタビュー、アンケートなどの手法を用いることによって、考察の基盤を得た。

世界の諸英語、クレオールなどの個別言語

変種に関しては、学会や研究会において知見を得つつ、できるかぎり網羅的な文献調査を行った。言語接触の諸研究に関しても同様にして文献等にあたり、アイルランド英語の言語接触環境、言語的性質および話者の言語意識における関連の詳細を検討した。

調査および考察の内容は、段階的に国際学会等で研究発表を行うなどして、さらなる分析を加えたり、必要な修正を施しながら、より精緻な記述と考察につなげた。

4. 研究成果

本研究においては、アイルランド英語の性質を世界の英語諸変種の多様性と連続性においてみていくことによって、接触による文法形成と変化、および地域に根づいた英語に対する話者の言語意識を考察した。フィールド調査に基づいた、アイルランド英語の文法の動態的観点からの分析を基礎として、他の英語変種およびクレオールなどの接触言語変種との関係性について検討した。とくにカリブ地域のクレオールとの連続性の検討と、話者の言語意識の背景の調査に重点をおいた。

(1) アイルランド英語に関する調査

アイルランド共和国コーク市およびケリー県において、アイルランド英語の文法と接触言語的性質に関する調査、言語意識および言語の実態に関するフィールド調査を行った。これらは動態的な観点からのこれまでの調査を発展的に継続するものである。さらに本研究においては、アイルランド英語話者の言語意識の背景の詳細を知るため、新たにアイルランド語と英語の使用に関する調査にも着手した。

① 言語的性質に関する調査・記述

アイルランド英語にみるアイルランド語からの借用語とアスペクトに関する表現に関する調査を中心に行った(論文⑤、発表①に関連)。

② 言語コミュニティに関する調査・記述

アイルランド語をめぐる歴史的背景と現代のアイルランド語使用の実態について調査した(発表①に関連)。

③ 言語意識に関する調査・記述

アイルランド英語の諸特徴に対する話者の意識の詳細を検討した(学会発表⑤に関連)。また、ひろく言語意識の背景をみていくため、アイルランド語および英語への意識、アイルランドに起こった、アイルランド語から英語への言語交替に対する見方などを知るための質問を含む、言語とアイデンティティに関するアンケート調査を行った(論文②に関連)。

(2) 英語の多様性と連続性に関する考察

① アイルランド英語と他変種の連続性

アイルランドの調査を基盤として、世界の

他英語変種との関連を検討した。とくにカリブ地域の英語系クレオール諸変種との関係について、言語特徴に基づいた具体的な分析を行った。カリブ地域の英語諸変種は、アイルランドからの強制労働者が17世紀半ばにカリブに渡った史実とアイルランド英語と共通の言語的特徴の存在が興味深い。本研究期間中においては、両英語に共通する *do be V-ing* をもとに、どのような連続性があるのか、共通の言語特徴はなぜ生まれたのかを考察した(論文③、論文⑤に関連)。

② アイルランド英語の理論的位置づけ

他英語変種、クレオールを含めた接触言語変種との関連を、おもに共通の言語特徴と接触環境に焦点をあてて検討し、アイルランド英語の理論的貢献について可能性を検討した(学会発表④に関連)。

(3) 接触による言語変化と言語意識に関する考察

アイルランド英語の形態・統語法に関する分析から、文法体系形成の自律性とアイデンティティなどの社会的要因の影響の関わりについて考察した。

言語とアイデンティティに関しては、関連諸研究の成果を検討したうえで、みずからのアンケート調査の回答をもとにアイルランド英語の文法特徴に対する不使用評価の要因を分析し、民族的アイデンティティの関係性について考察した(論文④に関連)。

本研究ではとくに、アイルランド英語の動態的研究の基盤として、話者の言語意識(これまでの報告者の研究で例証してきた「Irishness 意識」と「Standard 意識」)に関する考察に重点をおいた。アイリッシュネスの意識についてその詳細をみるとともに、背景にあるアイルランド語の存在について現地にて調査を行い、言語意識と言語使用との理論的考察を導いた(論文①、学会発表③に関連)。

(4) 英語変種の多様性と言語教育への適用

アイルランド英語を含めた多様な英語(World Englishes 研究における知見)およびことばのバリエーションをめぐる研究(社会言語学の知見)が、大学など高等教育機関における言語教育にどのように役立てることができるかに関して、みずからの実践例を紹介し、成果の一部を明らかにした(学会発表②に関連)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5 件)

① Shimada, Tamami. “Morphosyntactic

features in flux: Awareness of ‘Irishness’ and ‘Standard’ in Hiberno-English speakers”, *Arbeiten aus Anglistik und Amerikanistik* 40, 41-65 頁, 査読有, 2015 年.

② Shimada, Tamami. “A Survey on Language and Identity in the Irish Context (I): Attitudes towards languages”, 『応用言語学研究』第 17 号, 明海大学大学院応用言語学研究科, 89-117 頁, 査読無, 2015 年.

③ Shimada, Tamami. “Diffusion vs. independent emergence of the *do be* habitual: Exploring linguistic connections between Ireland and the eastern Caribbean”. Faraclas, Nicholas 他編 *Transcultural Roots Uprising: The Rhizomatic Languages, Literatures and Cultures of the Caribbean*. University of Curaçao and Fundashon pa Planifikashon di Idioma, Willemstad, 221-240 頁, 査読有, 2013 年.

④ Shimada, Tamami. “Non-use, no identity? : The assessment of the ‘non-use’ judgement in ‘Irish markers’ in Hiberno-English”, 『ケルティック・フォーラム』第 16 号, 12-23 頁, 査読有, 2013 年.

⑤ Shimada, Tamami. “The *do be* form in southwest Hiberno-English and its linguistic enquiries”, *Festschrift for Professor Hiroshi Kumamoto*, 『東京大学言語学論集』第 33 号 熊本裕先生退職記念号, 255-271 頁, 査読無, 2013 年.

[学会発表](計 5 件)

① 嶋田珠巳 「アイルランドにみる言語の衝突と邂逅」, 第 18 回 明海大学応用言語学セミナー「言語・文化 衝突と邂逅—多文化共生社会を生きる」, 明海大学, 2015 年 12 月 5 日.

② Shimada, Tamami. “Variations in English activate EFL learner’s awareness: The impact of World Englishes on language education”, *World Englishes* 20, アミティ大学(インド), 2014 年 12 月 18-20 日

③ Shimada, Tamami. “Social factors in contact-induced language change: The present status of *do be V-ing* vs. *be after V-ing* in Hiberno-English”, *Klagenfurt Conference on Corpus-Based Applied Linguistics*, クラーゲンフルト大学(オーストリア), 2014 年 9 月 25-27 日.

④ Shimada, Tamami. “Some theoretical potentialities of Hiberno-English in contact

linguistics: an exploration of the *do be* habitual”, *Changing English: Contact and Variation*, ヘルシンキ大学(フィンランド), 2013年6月10-12日.

⑤ 嶋田珠巳 「“Stage Irish”と“Real Irish”—劇作におけるアイルランド英語と意識の問題」,日本ケルト学会東京研究会, 女子美術大学, 2013年4月20日.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

嶋田 珠巳 (SHIMADA, Tamami)
明海大学・外国語学部・准教授
研究者番号：80565383